

## 平成26年度 第2回 府中市保健計画推進等協議会会議録

日 時：平成26年8月4日（月）

午後6時～8時

場 所：府中市保健センター分館3階研修室

- 出席者 委員：岡 浩一朗（学識経験者・早稲田大学スポーツ科学学術院）  
小林 哲也（医療・府中市医師会）  
杉田 廣己（医療・府中市歯科医師会）  
田中 勝彦（企業職域・むさし府中商工会議所、（有）柏屋取締役社長）  
塚原 洋子（学識経験者・東京都小児保健協会理事）  
播磨 あかね（行政・東京都多摩府中保健所保健対策課長）  
藤原 佳典（学識経験者・地方独立行政法人 東京都健康長寿医療  
センター研究所）  
古山 一子（公募委員・市民）  
安井 忠昭（公募委員・市民）

- 事務局：川田福祉保健部長  
遠藤福祉保健部次長  
宮崎地域福祉推進課長補佐  
三竹介護予防担当主査（高齢者支援課）  
板垣地域ネットワーク担当主査（高齢者支援課）  
石谷包括ケア担当主査（高齢者支援課）  
鈴木健康推進課長補佐  
福田健康づくり担当副主幹兼係長  
福嶋成人保健係長（健康推進課）  
神田保健師（成人保健係）  
奥保健師（成人保健係）  
加藤栄養士（成人保健係）  
渡邊歯科衛生士（成人保健係）

コンサルタント：株式会社名豊 池上氏

※協議会設置要綱第6条の2項により委員9名中9名が出席しているため、本協議会は有効とされました。

■進行：鈴木課長補佐（事務局）

- ・開会宣言
- ・配布資料の確認 ※配布資料は別添参照

■これより議事進行は会長となる。※傍聴希望2名入室。

【会長】次第のとおり進めていく

1 報告事項

(1)「健康」に関する市民アンケート調査報告について（株式会社名豊、池上氏より報告）

【事務局】資料1-1は、前回報告した内容と過去4回分の調査結果で比較できるものについて、平成16年から25年のグラフで経年変化を分析した報告書である。

（資料1-2）元気体重、心の健康、定期的な健診受診、ソーシャルキャピタルの4点を基に有意差判定を行い、有意差ありのものを主に報告する。

「1元気体重について」では、健康や生活習慣病予防のために気を使っている人と元気体重を知っている人との関係についてクロス集計した。健康や生活習慣病予防のために意識的に生活している人は元気体重の内容を知っている割合が高かった。また、普段、体重のコントロールを心がけている人は、BMIの「標準」の割合が高く、心がけていない人は、「やせ」の割合が高く、「標準」が低いという結果が出た。このことにより、BMIの「標準」を維持するためには自分自身の体重コントロールが必要であることがうかがえた。「2こころの健康について」は、地区活動に参加している人と健康状況との関係について分析した。地区活動に参加する人は少ないが、参加している人ほど健康を保つことにつながっていることが分かり、市民が地区活動に参加しやすい体制づくりが必要であることがうかがえた。「3定期的な健診受診について」は、自分自身の健康状態と健診受診等について分析した。自分が健康だと思わない人、健康や生活習慣病予防のために何もしていない人、毎日いきいきと暮らしているとは思わない人は、定期的な健診受診の割合が低かった。自分自身の健康状態が良い人ほど、定期的な健診を受診する人が多いことから、定期健診の重要性の周知、受診しやすい体制づくりが必要であると考えられる。「4ソーシャルキャピタルについて」は、ソーシャルキャピタルを知っている人は、趣味のサークル活動やボランティア、地域の活動に参加している割合が高かった。また、知っている人ほど、地域のつながりを強く感じている人が多かったため、今後は、地区活動等への参加の促進を図っていく必要があるとうかがえた。その他、細かい点の分析については、今後も整理していく必要があると考える。

【委員】ソーシャルキャピタルについては、本協議会でも重要な検討項目の一つであるが、一般市民の認知度はまだまだ低いと考えている。この報告では、7%位の人が既に知っているという回答しており、多いという印象を受けるが、何かキャンペーンをしたのか、

それとも専門家のような方が回答しているのか見解を聞きたい。

【事務局】ソーシャルキャピタルの言葉自体は、まだまだ浸透していないと考え、アンケートには用語説明を加えたため、「そういう内容であれば知っている」と回答した人が多かったのではないかと考える。

【委員】「ソーシャルキャピタル」は、直訳すると社会関係資本となるが、分かりにくいいため、説明を加えたほうが、これから行動計画に移すにあたり市民が理解しやすいと思う。理解するかしないかによって今後の情勢が変わると思う。また、「元気体重」についても、府中市の独特な当初の設定だと思うが、経緯や簡単な趣旨を加えたほうが地域に浸透しやすいと思う。必要最低限、分かりやすくしていただきたい。

【委員】用語の説明を噛み砕いて分かりやすくすることは大切なことだと思う。どのような用語を、どのように使うかは、事務局でよく検討していただきたい。

(2) 第2次健康ふちゅう21（府中市保健計画）案について（資料2）1章、2章参照

【事務局】第1章（1～5ページ）は、計画策定の概要とし、背景や目的、位置づけ、計画期間、市のこれまでの取組や計画の策定経過を掲載し、第2次健康ふちゅう21で「市民（あなた）が主役！笑顔でつなぐ健康なまち府中」を基本理念として市民の健康づくりを支えていくことを述べている。

第2章（7～40ページ）は、府中市の健康を取り巻く現状と市民アンケートから分かる現状として、各種統計データと、市民アンケート結果、第1次計画の評価を掲載している。これまで経年評価を行ってきた、事業実施計画の分野別取組と重点取組の平成25年度評価を5点満点で評価し、今後の取組の方向性を3段階で表したそれぞれの評価を記載している。「4 現状及び第一次計画の評価からの課題」では、市民アンケートの調査結果と事業実施計画評価、新たな保健上の課題となっているものをまとめ、第3章の第二次計画の重点取組（資料5）につながる内容で記載していく。

第3章は、第二次計画の基本的な考え方と取組として、基本目標、方針、重点取組やその他事業の具体的取組を掲載する予定である。参考資料は、本計画の策定にあたり使用した統計資料とアンケート調査等を掲載する予定である。

(3) 元気いっぱいサポーターアンケート調査、企業聞き取り調査結果報告

（資料3-1、内容は資料3-2参照）

【事務局】本アンケートは、元気いっぱいサポーター事業の現状と今後の活動内容を検討する目的で実施した。666件個別配布、回答208件（回答率31.2%）。

問1 サポーターになった目的（複数回答）は、自己の健康管理が89.4%と最も多い回答であった。社会とのつながりは22.6%あり、今後のPRによっては“つながり”の活動に期待がもてると考えた。問2 サポーターになって生活の変化では、半数以上が変化を感じており、ご自身の体や運動・食事の関心が高まったという意見が多かった。

他に「相手への思いやり」「人と会うことで元気がもらえる」など人との交流やつながりが増えたとの回答もみられた。**問3**日々の健康づくりの取組では、ウォーキングやストレッチなどの運動や食事に対する取組が多数あり、市の体育館や介護教室などで“仲間をつくる”交流をもちながらの健康づくりの意見も多くみられた。**問4**現在活動してみたい地区活動は、「健康増進室への参加」が52.9%で“体を動かしながらの活動”を期待している健康意識の高いサポーターが多いことが分かった。「地域でのイベント」が39.4%と高く、具体的には高齢者の福祉に関する活動等の関心が高かった。**問5**ボランティア活動経験は約半数あり、内容は高齢者・障がい者・災害時ボランティアが多くあった。読み聞かせなど身近なものから、市民後見制度のレクチャーなど専門的活動等、地域で活動している人材が多くいることが分かった。**問6**市に期待する社会活動参加のきっかけづくりとしては、「場の提供」と「活動紹介」が半数近くあった。「市にコーディネートを希望する」という意見もあったので、健康推進課だけでなく協働のとりまとめを行っている市民活動支援課やサポーターの関心が高い高齢者福祉の窓口である高齢者支援課などと連携をとり事業の紹介や講座などを企画していく必要があると考えた。**問7**どのような支援があればグループでの活動ができるようになりますかでは、7割近くが「場の提供」とあり、市にコーディネーター的な役割を求める意見が多数あった。今回、回答者の7割以上が60歳以上（リタイア後）で、社会的活動を活発に行っている年齢層が中心であったことから、既に地区活動を行っている、もしくは、きっかけがあれば活動をしたいと思っている方が多く、今後府中市が目標にしているソーシャルキャピタルの醸成に向け、活動が期待できる人材であることがアンケート調査より分かった。

社会活動のきっかけづくりや支援については、コーディネーター的な役割を市に求める声が多いため、市の中でも各課と協働・連携をしながらソーシャルキャピタルの醸成を推進していきたいと考える。

**【委員】** 配布対象者（件）の意味と内訳を詳しく説明していただきたい。

**【事務局】** 団体については、代表に対し1枚調査表を送付している。その中で複数回数が可能な団体はコピーして回答していただくよう依頼している。個人と職員の単位（件）は、（人）である。

**【委員】** 団体としては、団体の代表者として回答しているのか、個人の意見として回答しているのかを把握しているのか。

**【事務局】** 団体の状況としての回答ではなく、個人の回答ととらえている。

**【委員】** 団体として回答した人が、個人として回答しているのであればこれで良いが、団体となっていることに少し違和感を感じている。また、職員とは何をさすのか。

**【事務局】** 市の職員で健康に関心ある者が96人登録している。

**【委員】** 団体、個人、職員で回答者の内訳はどのようになっているか。

**【事務局】** 回答は全て無記名であったため、把握していない。

【委員】ももとの属性で意味合いが変わってくるものであるため、今後機会があれば、回答者がどのようなバックグラウンドのある人なのか等最低限入れていただくと良いのでは。他に意見はあるか。

【委員】市民アンケート（資料1-2）等の報告で、年代や性別等、顕著に有意差がでたものがあれば教えていただきたい。

【事務局】現在把握はできていない。今後素案を作成する段階で必要であれば、対応していきたい。

【委員】サポートという言葉について、当初の意味合いと変化が出てきているという話であったが、ここで知識を得た方が自治会や町内会などさまざまな地域の中で知識を還元できるような形をとると良いと思う。

【委員】今回、サポーターやボランティア、コーディネーター等地域でさまざまな役割を持っている方をどのように整理し、どのようにしたらそれぞれが有機的に繋がるかが重要な課題である。この元気いっぱいサポーターについては重要な部分であるため以後の審議事項の中で意見を深めたいが良いか。

次に、企業の聞き取り調査について報告をお願いします。

【事務局】資料4-3 府中市保健計画(第二次)に反映していくために市内企業に対し、健康管理事業、健康増進事業等の取組や意見について聞き取り調査を実施した。実施期間は平成26年6月11日から19日、対象は、大企業3社、中小企業5社、計8社である。調査方法は、各企業を訪問し、直接お話を伺った。調査項目はこころの健康づくり、生活習慣病及びメタボリックシンドローム予防の取組、健診受診率向上のための対策、地域との連携の4分野である。(調査票と結果は、資料4-1、4-2)

こころの健康に関しては、全ての企業で研修や情報提供を行っていた。大企業では職場復帰の対応がシステム化されており、中小企業では、会社の特色を生かした取組が行われていた。管理職による定例的な社員の健康状態の共有、職場パトロールなど会社全体で取り組んでいる企業があった。

生活習慣病等への取組では、ほとんどの会社で喫煙対策を行っていた。中には会社の幹部が禁煙し、男性従業員の喫煙率が40%から20%に減少した企業があった。

特定健康診査は、全ての企業の社員が100%受診していた。大企業には、健診受診者全員に健診後の面談を実施している会社もあった。中小企業では職場で健診や健診後の指導が受けられるように配慮したり、がん検診受診のために休暇を調整している会社もあった。がん検診については、社員が個人的に健康管理の一環として受診している会社や健保組合が受診率を把握しているなど、現状が分かった。

地域との連携では、くらやみ祭や商工まつりなどの地域のお祭への参加や協賛、イベント開催、子どもの社会科見学の受入れ、清掃活動等、すべての企業が地域との連携を図っていることが分かった。その他の意見として、市に対し、積極的な健康情報の発信や働く世代に合わせたサービスの要望があった。

この調査を通じ、大企業は健康管理に関する取組がシステム化されている傾向にあり、中小企業は画一的なものではなく個々の従業員に合わせた取組があり、経営者や管理職の考えが反映されていることが分かった。本調査結果は企業の優れた取組として広く周知していくとともに、企業の要望や課題についてサポーター事業を通じ、検討していく予定である。

## 2 審議事項

### 【事務局】

#### (1) 第2次健康ふちゅう21（第二次府中市保健計画）重点取組について資料5

第二次府中市保健計画は、4つの基本方針を達成するために事業を基本方針ごとに設定して取り組む予定である。そのうち、特に重点的に取り組む①元気体重の維持、②こころの健康、③ライフステージに応じた定期的な健診の受診、④ソーシャルキャピタル（学校・企業等との協働）の水準を上げる、⑤健康危機管理の構築の5事業について、現状と課題、望ましい姿、取組の方向性、市民及び市が取り組むことを、事務局内で検討しまとめた。今後第3回目の協議会に向け、素案作成のための基礎資料として活用していくほか、5項目に関する市の考えとして、施策展開に活用していく。各項目の網掛け部分は、市民や市民団体、企業等と協働する予定の「元気いっぱいサポーター」を活用した事業展開が見込めるものとして具体的に提示している。

①元気体重の維持では、望ましい姿の実現のため、市民には、「定期的に体重を測る」「体重を意識する」、「自身の取組を周りの人やサポーター同士で紹介しあう」ことなどが求められる。市の取組としては、「元気体重を周知する」「イベント等を活用し、サポーターの活動紹介等を行う」、「健康づくりが実践しやすい機会を設ける」ことが求められる。

②こころの健康では、市民・市が共にライフステージに応じた取組が必要であると考え、ライフステージごとの取組を列記している。その中でも特に全年齢の取組として、市民には、「人との交流を大事にする」、「地区活動に参加する」、「世代間交流」、市には、「情報発信」、「相談窓口の充実」、「世代間交流がもてる仕組づくり」等が求められる。

③ライフステージに応じた定期的な健診受診では、市民には、「健診結果や保健指導の指導内容の活用」、「健診を通じ自らの健康状態に興味を持つこと」、市には、ライフステージに応じた健診の情報提供、一次予防の重要性の啓発などが求められる。

④ソーシャルキャピタルの水準を上げるでは、「自身の活動したい分野について振り返って考える」、「健康に関する有益な情報を身近な人へ発信する」等、市には、「活動のコーディネート機能」、「健康部門だけでなく他部署との連携・協力体制を整える」等が求められる。

⑤健康危機管理では、市民には「必要な備えや予防接種などの予防対策を行う」、「訓

練や研修に参加する」等、市には「情報の収集」、「適切な情報の提供」、「相談窓口の充実」が求められる。

5つの重点課題は第二次計画の取組の中で中心を占めるものになると考えるため、それぞれの内容について、忌憚のないご意見をいただきたい。

【委員】重点取組について、ご意見、ご質問、アドバイス等はあるか。

【委員】②こころの健康（2ページ）の、現状と課題のデータは、全部府中市のものか？

例えば、（6）精神保健相談件数の増加で、平成22年度から年間1万件以上の相談が寄せられている、等は府中市に関するデータなのか。

【事務局】データは府中市のものである。それぞれのデータ元はカッコ内に示すとおり。

【委員】（6）は、府中市だけで、年間に1万件以上の数の相談が上がってきていると理解するものか。

【事務局】保健師の活動報告に関して取りまとめられた報告を参考に、各分野の保健師が電話相談、家庭訪問、関連機関への連絡等で出した数の報告を足しあげたものであり、人数ではない。延件数である。

【委員】年間1万件以上というのが非常に疑問であり、もう少し詳しく調べていただきたい。増加というのであれば、（4）のように、22年度から24年度はどのくらいであった等、比較で現した方が良いと思う。

【委員】こころの健康（2）65歳以上単独世帯のところ、平成27年には10%を超え年々増加する傾向にある（推計値）とあるが、現時点がどのくらいを示した方が良いのでは。今現在、既に10%を超え、11.6%位であったと思う。現在の数値を書いた方が良いと思う。

【事務局】今回、5年ごとに掲載された資料を基にしたので、直近の数字に変更する。

【委員】元気体重の件だが、標準体重と言われているものが、病的な状態で標準に入っていることもあり、『元気』という言葉を使うことによって、市民に間違った印象を与えてしまうことも考え得る。例えば「痩せ型の人がむくんできたら標準体重」「糖尿病の人が悪化すれば標準体重」等、悪い状態になった時に標準体重になるとすると、それを『元気』と言ってしまうことで、非常に誤解を与えてしまうので、「状態に応じては医療機関（医科、歯科）に相談してください」という流れを市の取組に対して必ず入れていただきたい。

【委員】入れていただくという事で良いか。

【事務局】はい。素案の段階では入れていきたいと思う。

【委員】②こころの健康で、市民が取り組むことの（1）乳幼児期の①周囲と協力して子育てを楽しむとあるが、（2）（3）等を見ると、この年代に属する人が何に取り組むかが書いてあるので、入れ込む所が違うのではないか。成人期の所ではないか。

【事務局】事務局内でも議論したところである。乳幼児期は0から6歳と捉えているが、その年代の子どもたちのこころの健康と言うよりは、その子どもを育てる親の状況が

影響するということからこのように掲載した。

【委員】他の項目と合わせると、無理してこの年代に入れなくても良いのでは。もしくは、「保護者は」とか「親は」というような表現を加えても良いのではないか。

【委員】会長の言うように、主語を入れれば良いと思う。

【事務局】表記を少し加えて対応したいと思う。

【委員】この先、言葉の使い方などは工夫されていくのだと思うが、『ストレス耐性』と言う言葉を使っているが、分からない。

【委員】『ストレス耐性』もそうだが、『社会資源を活用』も難しい。もう少し表現を分かりやすくした方が良いと思うが。何か具体的に良い表現があるか。

【委員】市が取り組むことの（２）①に、ストレスや悩み事への対処法を周知するとあるので、それと合わせて『ストレス耐性』は『ストレスへの対処法』で良いのでは。

【委員】『社会資源を活用』についても、「社会資源が活用できる」等、行動につながる表現が良いのでは。

【委員】社会資源とは、社会関係資源のことか。どのような意味で使っているのか。

【委員】社会資源とは、友人、知人等の人間関係の意味なのか、医療機関も含めたような社会資源の意味なのか、事務局の趣旨はどうか。

【事務局】相談窓口や医療機関を想定している。

【委員】それであれば、社会資源で良いと思う。

【事務局】例示をして、表記するなど検討したいと思う。

【委員】（３ページ）市が取り組むこと（４）シニア期の③認知症や孤独死等の予防とあるが、『孤独死』と言うよりは『孤立死』と使うことが多いので、差し支えなければ変更していただきたい。

【委員】（３ページ）市民が取り組むことの（４）シニア期の『孤立を防ぐ』のところで、個人として自分が孤立しないようにするのか、他の方が孤立しないように働きかけをするのか、どのようなことを示しているのか伝わりにくい。

【委員】事務局の趣旨はどうか。

【事務局】個人の、と言う意味である。

【委員】『自身の孤立を防ぐ』で。

【委員】（８ページ）⑤健康危機管理の市民が取り組むこと⑤で『有事』と言う言葉を使用しているが、この言葉には様々な議論があり、この言葉は使わないところもある。

【委員】災害などが起こると言うことを意味しているのだとは思いますが、確かに『有事』というと

戦争、紛争を意味する言葉として使うことがある。いろいろな考え方の人がいるので、誤解を受けない常識的な言葉で表現した方が良い。

【委員】現状と課題にもある、健康危機発生時ではどうか。

【委員】災害や進行の感染症等、平常時以外の状態ということで何か良い表現はあるか。

行政的に適した表現はあるか。

【事務局】他の計画等も参考に、検討していきたい。保健計画の中で使用するの、先程ご意見いただいた『健康危機発生時』と言うような言葉が良いのではと考えた。

【委員】検診の所で、がん検診の受診率の低さが気になっており、重要な取組と思うが前回も話題に上がった、皆が受ければ良いのかという議論について、市の考えは整理できたのか。

【事務局】これから財政当局と調整になるが、来年度以降、検診費の一部有料化を検討している。それと平行して、受けやすい環境として、土曜開催や時間の延長、他の検診とのセット検診、定員増加等を検討している。今年度からは各がん毎に、受けていただきたい年齢層に直接受診券を送る、勧奨通知制度を始めている。年度末にはある程度実績が出るため、その数字を参考に今後進めていきたいと考えている。

【委員】がん検診を有料化するためには、かなり説得性がないといけないと思う。また、個人的見解であるが、生活保護受給者や、その他生活困窮者に対しても有料にした場合に平等に受けられるよう考慮して欲しい。

【委員】対象者によってサービスのウェイトをかけるということですね。

(5ページ) 健(検)診に関してだが、(2) 20～39歳の各種がん検診受診率が低いとあるが、どちらかというとなら40歳以降の方がより重要かとは思いますが、20～39歳代のがん検診の意義や行政的な対応の仕方はどう考えるものなのか。

【委員】この年代だと、子宮頸がんや乳がんということだと思ふ。胃がん、肺がん等は比較的高齢の方が多い。若年層や女性の場合、子宮がん検診を受けることは、なかなか大変だと思うので普及や啓発等が必要だと思う。

【委員】乳がんは都の平均と変わらないが、確かに子宮がんの受診率は低いようだ。

【事務局】20～39歳代の健(検)診の受診率だが、その他の内科的な健診と20歳から受けられる子宮がん検診と全て合わせたもので受診率が低いと判断している。

【委員】引き続き、審議事項(2)に移る。

## (2) 元気いっぱいサポーター概要について資料6

【事務局】

第一次計画により取り組んできたサポーター制度は、あらかじめ登録した市民に対しての健康づくりの情報や体重・筋肉量などを測定する機会の提供にとどまっていた。

第二次計画策定に向け、事務局では、サポーターへのアンケート調査、事業担当者による意見交換会、他市の先進事例の研究等を通じて、制度の存続に向けた見直しを検討し、実施することを考えている。見直しのポイントは、サポーター同士のつながりを持てる環境づくりを整えることにより、健康づくりの取組が広がる仕組みづくりを進め、さらに社会全体の健康づくりに寄与できる制度にすることである。具体的な事業内容は、自ら健康づくりに取り組む人の支援として、これまでの情報提供に加え、保健センター

の健康増進室を活用したプログラムの充実、サポーター個人の健康づくりの実践内容を紹介する場の設定を検討している。また、サポーター活動だけでなく、他の分野や活動に興味のある市民が活躍できるような仕組みを整備していく。また、現在活動していない人への支援として、身近に始められる健康づくりメニューを紹介できるような体制整備を検討している。これまでの元気いっぱいサポーター事業は、市民の登録作業を要したため、すそ野が広がらない原因となっていた。今回の見直しでは、既存の事業に新たな取組を加え、各事業への参加者全てを「元気いっぱいサポーター」ととらえて「元気いっぱいサポート事業」として実施していくことを検討している。また、本事業を機に、市民と市や他の主体との協働が進み、各分野の活動が活性化するきっかけになることも期待している。事業評価手法は、参加者数の増加を指標とするが、事業開始の次年度以降には、内容的且つ参加者の新たな活動の広がり、行動変容へつながったか等の観点の評価するため、事業参加時にアンケート調査等を実施し、評価材料としていく予定である。以上

【委員】元気いっぱいサポーターの見直しについて、意見やコメント等はあるか。

【委員】各部署で色々協力してやっていく協働体制が出来ると良い。

【委員】資料7等、補足資料があるが、紹介をしていただきたい。

【事務局】資料7は、前回の協議会で情報提供いただいた富山市の事例の資料である。

資料8は、保健センターにある健康増進室で現在実施している事業の紹介、資料9は、高齢者支援課の取組が一同に把握できる資料となっている。

【委員】健康づくりの場で学んだ事を地域の中や他の場所で活かすことが大切であるので、そのような協働体制を考えていただきたい。

【委員】いかにサポーター自身が実働されるかにかかってくるのではと思う。今までのデータを見ると、元気いっぱいサポーターのメインの担い手は60～70歳くらいの方ではないかとみている。その世代の方からすると、体重維持やメタボ対策も大事ではあるが、中には介護予防に関心をお持ちか、60代だどご両親の介護をしている方もいると思う。一番の担い手である60代のサポーターが活動できる体制づくりが大事だと思うが、高齢者支援課の取組と連携していく体制等について、具体的なイメージはあるか。

【委員】元気いっぱいサポーター制度の見直しは、市としては『サポーター』という言葉の垣根を低くして、草の根的に市民の間に広めていこうという事だと思う。

【委員】社会福祉協議会でも小地域懇談会というものを開催しており、指導的な方を育成して地域に広めていこうとしている。サポーターもそのように増えていけば良いと思う。今までは市が主体で一方向性に行っていたことが多かったが、これからは横の連携を取り、協力していくことが大切である。

【委員】計画に盛り込めるかは別であるが、現在の府中市の成人保健の保健師活動があまり見えてこない。各地では、高齢福祉分野と保健分野を連動させるコーディネー

ター的な役割を保健師が担っているが、府中市では、保健師が地域をどのようにわけ、健康づくりに関してどのような仕掛けをしているのか。例えば、(1) 具体的な事業内容②人と人をつなぐ仕組について、とあるが、人と人をつなぐ仕組では特に保健師の活動が重要になってくると思う。その辺りはどのようになっているのか。

【委員】保健師の支援の仕方や、システムもかかわってくる部分だと思うので、我々の知識の整理という意味で、健康推進課の健康づくりの方策と高齢者支援課のスタンスや方向性を伺いたい。

【事務局】健康推進課成人保健係の保健師は5名いるが、成人の方の相談や健康増進法に基づく各種事業を実施し、管理することが中心である。ただ、今後の事業を考えると、今までよりもこの事業を通して地区活動を展開していく動きになるのではと思っている。また、今後の成人保健係の保健師活動としては、自殺対策で東京都が新しい事業を開始しており、その中で自殺未遂の事例等の相談先として健康推進課成人保健係に相談が入ってくる可能性があるため、こころの健康づくりの面でも少し個別性のある活動が出てくるのではないかと考えている。元気いっぱいサポーターの方は、先程からでている通り、60代が36%と最も多いため、その年齢的な事、ご家族の介護問題等については高齢者支援課と密に連携しながら、今後どのような活動の広げ方が良いのかを検討し、具体的にしていきたい。

【委員】これは、府中市のシステムの問題と言うより、それ以上に国の健康施策でも縦割りの部分である。介護保険や介護予防等の高齢者施策は老健局が行い、地域保健施策は健康局というように全然違うセクションで作っているため、地域におりればおるほど、現場が混乱するのではないかと。両方の対象であり一緒にやれば有効で、職員のロスも少なく出来るのではないかと考える。その辺りで、今回サポーター制度を広めるにあたっては、今一度、既存の高齢者支援課で行っている人材や資源をうまく活用できないか、整理していくと良いのではと思う。高齢者支援課としてのスタンスや目標はあるか。

【事務局】資料9 高齢者支援課では、介護予防ひろめ隊を介護予防推進センターの中に組織して、府中体操を広める時や、地域での体力測定会でお手伝いいただくためボランティアを登録している。元気いっぱいサポーターと同じような取組だと思った。サポーターとどう連携していくかはこれから検討していく必要がある。

【委員】人材が共有出来るというメリットはあるのではないかと。と思う。

【委員】元気いっぱいサポーターの男女比はどうか。サポート内容が、男性か女性かで、特性が違うと思う。

【事務局】はっきりとした数値ではないが、今回のアンケート結果をみても女性の方が多いと思う。

【委員】どういった活動をサポートしているかは把握しているか。

【事務局】今現在は把握していない。今後は先ず、どのような活動をしたいのか、聞く

ところから始めたいと考えている。

【委員】介護予防ひろめ隊を作る時にもお手伝いしたのだが、その時は、体操を作るだけでなく、広めて欲しいという活動が明確であった。来ていただき、そこで教えるために自分が練習する。すると自分も元気になるという予測と、ゲートキーパーになるので色々な場面で体操だけでなく情報を広める事に役立つ。元気いっぱいサポーターも対象は異なるが同じような人を作りたいのだと思うので、出口の部分をもっと明確になれば、すみ分けも出来たり、良さがでるのではないかな。

【委員】サポーターと位置づけられると、敷居が高く、難しいと考える人がいるのではないかな。③市の事業に参加していない人へのアプローチについては、どのようなものを考慮しているのか。自治会等への広め方も一つあっても良いと考えた。

【委員】市の事業に参加していない人にどのようなアプローチが想定出来るのかと言うことと、自治会や町会等、組織との連携、活用の仕方についてイメージはあるのか。

【事務局】様々な事業の広報手段として、市の広報があるが、なかなかそれでは広まりきらない部分があるので、がん検診の受診券送付時に情報を集約した用紙を入れたり、健康事業カレンダーの中に取組を入れることで、事業に参加していなくても情報がとれる仕組みを考えていきたい。まずは入口に来ていただけるような魅力的な取組を考えていきたい。また、自治会等組織との連携については課題の一つと考えている。自治会等や市の持つNPOボランティア活動センター等での情報の周知も一つの手段として考えている。

【委員】やはりサポーター自身がどれだけ情報を広められるかが重要ですね。

【委員】元気いっぱいサポーターをたくさん作って、介護予防の方との交流事業などを行うと、人と人がつながり、お互いに良いヒントが得られるのではないかな。

【委員】フォーラムやイベントを考えても良いのでは。他には意見あるか。

【委員】先ほどの意見にもあったが、男女比がすごく関係すると思う。女性は専業主婦などで元々地域とのつながりがあり、その地域との関わりを持ちながら生きていくというライフスタイルが確立されていると思うが、男性の場合は、働いていて、60歳になり突然地域に放り出されるため、孤立しがちである。元気いっぱいサポーターも男性の地域での住みやすさの方策を意識すると良いのではないかな。

【委員】確かに自治会の役員は女性が多い。男性は自分の趣味に生きる、という方が結構多い。いかにその方々に、地域の中でやれることを積極的にお願ひし、つながりを持てるかという事が重要だと思う。

【委員】草の根的に広めると言うことは、行政が前面にでるのではなく、府中市は1、2歩下がり、市民の健康の下支えになるような人たちを作っていきたいのだと思う。

【事務局】男性にどのように情報を提供していくかについては、今回、企業に聞き取り調査をし、やり取りが出来たのでこれを活かして、例えば定年に近い方に対しどのような事があれば地域で活動できるか等の調査させていただいたり、また、各社

の保健師職と連携を図りながら、その方々を取り込めるような方法を一緒に考えていくことも出来ると思った。このような新たな取組についても今後サポート事業の中で検討していきたい。

【委員】岡委員に関わっていただいていた元気一番体操は、今現在、勤務する施設でも行っており、体操を覚えた方が指導に来てくれるので利用者もとても楽しんでいる。

私自身、以前ケアマネジャーとして働いていた時にはあまり関心を持っていなかったが、数年が経過して体操に触れたときに、あれがこの様に広まったんだなと実感した。

草の根的に広めるという意見があったが、全然知らないうちに広まっていたと言うことが大事だと実感として感じている。

【委員】なかなか結論が難しいが、力んでしまうと、草の根的にあまり意識していない人からは、退かれてしまう部分もあると思うし、逆に何もしないと、いるのかいないのか分からなくなってしまう。そこは、サポーターの中に何かやりたい人がいるのかを市の方も調査するという事ですので、あがってきたものの中に自然体で出来るものがあれば、その活動を支援していくというので良いのでは。増えないと意味が無いのであまり敷居を高くするとまずいだろう。そのバランスをよく検討していただきたい。では、時間になったので、詳細は次回持ち越しということで良いか。

【事務局】今日いただいた意見は、制度の大枠の設計の部分に活かしていきたい。

【委員】人と人とのつながりの中に健康という問題をどう入れていくかがポイントになってくると思う。NPO法人、ボランティア等色々な団体があるので積極的にそこへの働きかけを強くし、そこからさらに草の根で健康と言う問題を深めていっていただければと思う。

【委員】以上で審議を終了する。

【事務局】次回協議会は、9月26日（金）18時からを予定している。内容は第二次保健計画（案）の決定についてご協議いただきたいと考えている。10月下旬に行うパブリックコメントに掛ける前の案を確定したい。また、健康に関する市民アンケートの最終報告をする予定である。

【事務局】これにより、本日の協議会は終了とする。

（ 閉会 ）